

# IMF サーベイ

国際通貨基金・世界銀行年次総会

## 不確実性が世界経済回復と成長を妨げている、とラガルド専務理事

IMF サーベイ・オンライン  
2012年10月11日



記者会見に臨むラガルド専務理事とデビッド・リプトン筆頭副専務理事。「不確実性削減のための行動が必要」（写真：Stephen Jaffe/IMF）

- 不確実性が、投資や雇用創出を妨げている
- 中央銀行による最近の強力な政策シグナルが政策行動への機会となる
- IMF のトップが回復を確実にするための勇気のある、協力的な行動を呼びかける

世界の経済成長は政策立案者が政策のコミットメントを達成するかという不確実性によって抑制されていると、IMF のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は述べた。東京で開かれる2012年国際通貨基金・世界銀行年次総会に先立って行われた記者会見で、世界経済の回復を確実にするため多くの適切な決定が行われたが、これらの決定が実行される必要があると述べた。

「我々は、不確実性を減らすための行動を取ることが必要です。我々の多くは、何をすべきかを議論したし、何が行われるべきかを理解しているが、それが実際に実行される必要がある」と、ラガルド氏は述べた。

「最も必要なのは、協力である。持続的回復を促す過程がより複雑になっている。複数のプレイヤーが、一つのゲームを行なっている。」伝統的な俳優が異なる役割を演じるように、世界経済は、新たなプレイヤーの出現をみている、とラガルド氏は述べた。

「我々は、回復がほんの少し跳ね返りではなく、本当に長期的で持続可能であることを確実にするために、行なわれるべき事を本当に実行する必要がある」とラガルド氏は述べた。本当に

### 波及効果

IMF は世界経済成長の予想を引き下げたと、ラガルド氏は述べた。最大の変化は、さらに大きい世界的な波及効果の展開であり、新興市場、特にアジアで、減速が広まった。

IMF 世界経済見通しが、数ヶ月前より悲観的な世界経済の観測を発表した後、ラガルド氏は記者と、見通しがさらに悪化し、リスクが増加したと、話した。IMF の「財政モニター」は、多くの先進経済で、債務比率が危機前のレベルに戻るには、債務と財政赤字を削減するための努力を何年も続ける必要があるだろうと指摘した。そして、国際金融安定性報告書は、おリスクの多さとユーロ圏の懸念が金融不安を煽っていると指摘した。

ラガルド氏は、世界の経済回復が遅い原因の一つは、世界の多くの地域での不確実性のレベルであると述べた。「**不確実性のレベル**が、意思決定者が投資や雇用創出をするのを妨げている。」

## 行動する機会

プレーヤーの一部は、行動することを決めたが、これは良いニュースだ、とラガルド氏は述べる。中央銀行は最近良い、強力な政策シグナルを出した。「それ自体では十分ではないので、良いタイミングができた」と、好機として利用されるべきである。」

「今日の私のメッセージは、国が持続的回復に拍車をかけるため、勇気のある協調行動を取る必要がある。」ラガルド氏は、いくつかの分野で行動が必要だと付け加えた。

- **欧州**は危機の震源地であり、最も早急な行動が必要である。ユーロ圏の加盟国により、財政規律の強化と欧州の銀行の監督に関する決定がされた。
- **米国**は財政の崖と債務上限に関する重大なリスクに直面している。年末が近づくと、これらのリスクはより不穏さを増している。
- **新興市場国**は、一部は外部、一部は国内に起因する脆弱性を注視する必要がある。
- **低所得国**もまた、脆弱である。特に食料価格の高騰や、さらなる人々が貧困へ陥ってしまう危険性に対してである。

ラガルド氏は、4つの主要な政策分野に対し行動することで、世界経済の回復を確実にすることができる」と述べた。

- **金融セクターの改革を完了する**。「世界中の指導者に、金融セクターは、5年前と比べ安全であるかと聞くと、多くが、まだと言うだろうし、私もそれに同意する。」
- **過去から受け継いだ多額の債務を処理する**。「債務削減のための信頼できる中期戦略が必要である。そのような戦略は、今日、戦争中以外の多くの先進経済では、見られない。」
- **雇用の多い成長を支持する**。「先進国の失業率、特に若年層の失業率は、恐ろしく、受け入れられないものである。そのため、より包括的で、特に雇用を創出をしやすい成長を促すことに、集中しなければならない。」
- **世界の不均衡という、根本的な問題に取り組む**。「不均衡はなくなるものではなく、成長過程ではこれが広がる傾向にあるため、対応する必要がある。」

ラガルド氏は、年次総会が始まると、IMFは、新たな融資へのアプローチ、監視、および技術支援を含む、独自の大きなアジェンダがある事を認識した。総会中に、これらの問題について、IMFの加盟188カ国と活発な議論があるだろう、とラガルド氏は述べた。

## IMFの改革

ラガルド氏は、2010年改革パッケージの完成が近いと述べ、継続的なIMFガバナンスの改革の重要性を強調した。承認のための3のしきい値のうち2つは通っている。これはクォータ変更に必要な同意のに関するもの、そして、IMF理事会の改革に必要な国の数に関するものである。

「これらの改革は、IMFがより代表的でより包括的であることに役立ち、新興市場国がIMFの十大出資国入りを果たすことになるだろう」とラガルド氏は述べた。

記者からの質疑応答で、ラガルド氏は、IMFとエジプト政府当局間の協議が今月カイロで再開される予定で、合意が達成される自信があると述べた。ラガルド氏は、IMFの対ギリシャ支援プログラムのすべての詳細について差異を埋めるべく、IMFのスタッフがギリシャの政府当局者と話し合いをしていると述べた。また、欧州安定メカニズムの発足を歓迎した。

中国当局のトップが年次総会を欠席した事について聞かれたところ、ラガルド氏は、アジアのすべての経済プレーヤーとパートナーは、世界経済にとって不可欠であると述べた。

「IMFは協力を奨励するところであり、対話や関係改善のためのフォーラムであり、長年に渡るものであるとはいえ、経済的観点からの協力が続けられるように、違いが調和的かつ迅速に解決できることを願っている。」